【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立湊小学校

1　前年度 評価結果の概要	・全職員で共通理解のもと共通実践を行うことで、児童の思考力、判断力、表現力等が向上した。数値として力が見えるように、 ・全職員の安全管理意識の高揚と児童の健康体力づくりに努めた結果、児童が各種避難訓練、安全教室等に真剣に主体的に取り組むことができるようになった。また、全学級で県のスポーツチャレンジ種目に挑戦し、健康体力づくりへの機運が高まった。 ・地域連携協働活動を積極的に推進した結果、子どもたちが生き生きと活動する姿が見られ、一人一人の自己肯定感が高まっている。
2　学校教育目標	**豊かな心をもち生き生きと自分の「よさ」を発揮できる湊っ子の育成**
3　本年度の重点目標	課題に挑む子供たちの育成に向けて、子供たちが実力を発揮できる環境づくり・授業づくり 【環境づくり】すべての子供が笑顔で学ぶことができるための「安心・安全な環境づくり」「地域・保護者に開かれた学校づくり」「職員の笑顔づくり」を行う。 【授業づくり】校内研究や行事への取り組みなど、共通実践による「確かな学力の向上」「 開発的生徒指導」を行う。

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ●教科に関わらず、児童が主体的に取り組み、「自分ごとの学び」を手に入れる学習活動の工夫を行う。 ●語彙力と読解力を高めるために、読書を推進する。	○学校評価アンケートの校内研究に係る項目で共通実践ができていると回答した職員１００%。 ○学習に対する意識調査の主体性に関する項目において、肯定的な回答をした児童が80パーセント以上。 ○児童の目標貸出冊数を達成。(低学年100冊100%・中学年80冊100%・高学年50冊80%)	・校内研究において、各学年の取組を共有する体制を構築し、切磋琢磨して更なる取組の促進を図る。 ・問題解決に向けて学習の目的や方向性を示すラーニングマウンテンを取り入れる。 ・自己選択・自己決定の場を取り入れ学習を調整できるようにする。 ・図書室の活用や家読を推進する。		・		・		・	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳科の項目「生命の尊さ」「親切、思いやり」を重点項目とし、２回以上授業を行う。 ○生活アンケートで「友だちのいいところを見つけようとしている」の項目において肯定的な回答をした児童の割合が85%以上。	・教育の日等に「ふれあい道徳」として道徳授業の公開を行う。 ・体験活動を通して、友だちとの関わりや地域の人とのふれあいの機会をふやす。 ・「きらりみつけ週間」を作り、友だちのよさに目を向けられるよう仕組む。		・		・		・	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生活アンケートで「いじめをゆるさない」気持ちを持っていると回答した児童が85%以上。 ○学校評価アンケートのいじめ防止等の項目で組織的対応ができていると回答した職員が90%以上。	・いじめ発見や対応について職員連絡会や職員会議で気になる児童の情報共有を行う。 ・生活アンケートを学期に１回、県のアンケートを年に２回行い、児童の気持ちやいじめについての実態を把握する。 ・いじめの認知・対応についての職員研修を行う。		・		・		・	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●生活アンケートで「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童が75%以上 ●生活アンケートで「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした児童が80%以上	・自分なりの「ふりかえり」を重視した効果的・効率的なキャリアパスポートの記述を進める。 ・各種活動で、児童に活動の見通し、学びのふり返り、及び自らの達成感を感じさせる活動を仕組む。 ・ 地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年３回以上実施する。 ・「出番・役割・承認」の取組を徹底する。		・		・		・	
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●生活習慣アンケートで「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣が身についていると回答した児童が90%以上。 ●手作り弁当のワークシートに、食への気付き（食への関心の高まりを表す記述）を書く児童が80%以上。	・食育月間の6月11月の１週間に「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣アンケートを実施する。毎回振り返りを各自行い、達成率及び児童，保護者の取り組んだ感想を保健だよりに掲載し、保護者への周知を図る。 ・食育月間や各学期に１回の「手作り弁当の日」を設定し、振り返りのワークシートに感想を書かせる。写真や感想を廊下に掲示したり，保健だよりに掲載したりすることで，食への興味関心を高める。		・		・		・	
	○たくましい体づくりの推進	○体力アップ記録カードのアンケートで、「運動をすることが好き」と回答した児童が90%以上。 ○スポーツチャレンジに取り組み、各学年３種目以上のエントリーをする。 ○持久走大会へ向けての持久走タイムで、運動場50周を目標に取り組み，達成率９０%を目指す。	・スポーツチャレンジに各学年3種目以上取り組み、体を動かす楽しさを味わう機会を増やす。 ・持久走大会の3週間前から，業間で持久走タイムに取り組む。その際に持久走カードを使用し、持久力の向上を目指す。		・		・		・	

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限である月45時間・年360時間を超過する職員を0とする。 ○学校評価アンケートの業務改善に係る項目で肯定的な回答をした職員が90%以上。	・働き方改革の視点で変更した校時の実効性を検証する。 ・定時退勤日（金曜日）を設定するとともに、定時退勤日以外の日も退勤時刻を早められるよう、声掛けをしていく。 ・会議時間の終了を退勤時刻の15分以上前と設定し、90%以上の割合で達成する。		・		・		・	
	○教職員の役割の見直しとICT・専門スタッフの活用による効果的・効率的業務の創造	○教職員のワーク・ライフ・バランスのとれた生活を実現し、健康でやりがいを持って働くことができるICT・人的環境を整備する。	・日常的に教職員自らの勤怠管理を意識させ、専門スタッフの活用や教職員同士で教え合う体制を醸成し、ICTも活用して業務改善に取り組む。		・		・		・	
●特別支援教育の充実	○一人一人の個性や特性を生かした指導及び支援の充実と職員のスキルアップを図る。	○校内支援会議を定期的に組む、支援が必要な児童に対して、個に応じた支援に活かす為に心理検査を行う。心理検査の結果を基に支援の手立てを考える。 ○職員研修を年2回計画し、職員のスキルアップを図る。	・必要に応じてケース会議を開き、困り感のある児童について情報を共有する。支援が必要な児童に心理検査を行い、学級の支援に活かす。 ・「学びの多様性に関して」職員研修を行い特別支援的な配慮や支援グッズなどの研修を行う。		・		・		・	

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○地域とともにある学校づくり	○地域人材の活用や地域との交流	○地域人材を各学年で年間3回以上活用する。 ○児童が年間3回以上、地域の行事に参加する。	・公民館、地域団体などとの連携を図り、活動を展開する。 ・「人材リスト」を活用し、地域人材と日常的につながりをもつとともに、地域行事の日時と内容を紹介し、児童の参加を促す。		・		・		・	

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・ ・ ・